

こどもが まんなか

いわてのWAっこ

ワクワクドキドキ！



ハンカチ上げ

足場かけ

すべての子どもたちと学校の
ウェルビーイングの実現
を目指して

いわて幼児教育センター通信

No.2 令和8年7月10日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロードでき
ます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてのせんせい

「つながるってどういうこと？」

～園・市町村アドバイザー・幼児教育専門員～

いわて幼児教育センターの専門員が訪問支援した園の姿をご紹介します。今月は、「アドバイスに関わる者同士の連携」がテーマです。

あるこども園から訪問依頼を受けました。この園所在の市町村では、市町村幼児教育アドバイザーの育成と、幼保小の架け橋プログラムに力を入れています。

園の困り感は主に次の3点でした。

- 保育の質の向上を図りたい。子ども主体で遊びが充実する環境を、どう構成していったらいいか悩んでいる。
- 職員間で話し合い指導計画の改善に取り組んでいるので、アドバイスがほしい。
- 副園長が次年度、アドバイザーとして研修に参加する予定だが、本人の不安感が大きい。



どうしたら園の不安感を
取り除けるかな？
できればきめ細かい支援
をしたいけど・・・



そうだ！市町村のアドバイ
ザーになら、本音を話しや
すいかも！相談してみよう

岩手県幼児教育専門員	市町村の幼児教育アドバイザー	園
園に電話をして依頼内容の事前確認。 訪問当日までに「園で取り組むこと」「市の幼児教育アドバイザーに依頼すること」を確認。 本人からのアドバイザー研修参加への不安感の聞き取り。 必要な情報を市町村の幼児教育アドバイザーと共有	事前に訪問して指導計画についてのアドバイスをおこなう。 先輩アドバイザーとしてきめ細やかに相談にのり、不安感に寄り添っていく。	自分達の保育の“良さと強み”を見つけるために、園内公開保育に取り組む。



今まで、なかなか園内保育公開に取り組めずにいたようですが、専門員に保育をみてもらう事に「緊張する」という職員の声を、「そうだったら、事前に保育公開をしてみんなで見合ってみよう」と副園長が拾い上げたことで、抵抗感が少なく保育公開に取り組むことができたそうです。

訪問当日は、主に5歳児の保育参観をし、環境や援助のあり方を考え合いました。どのクラスの保育者も、少しの時間でもいいので必ず参観してカンファレンスに参加することにしました。

そしてカンファレンスでは、みんなが自分事として考え、「次はこうしてみよう」「こうすると異年齢での関わりになっていくかも」「今日の遊びの価値付けになって、さらに深い学びにつながる環境はこんなのがいいかも」など、次への後押しになる意見が活発に出されました。



(アンケートより抜粋)

自分が悩んでいることや迷っていたところを、わかりやすく伝えていただきました。「こうしていきたい」と思うことを、なかなか伝えることができなかったり、自信のなさから遠慮してしまったりしていましたが、自分の役割をしっかりと行っていこうと思います。

(幼児教育専門員の目)

私たち県の専門員が園・所に訪問できるのは、1年に1度きりです。訪問した際に聞いた保育者の困り感がその後どうなっていったか・・・夢中で遊び込んでいた子ども達の遊びがどのような展開をしていったか・・・再度訪問して確認することは、なかなかできません。

その点、市町村の幼児教育アドバイザーは、私たちよりずっと身近な存在です。今はすべての市町村に配置されているわけではありませんが、今後の配置促進に少しでもお手伝いしていきたいと考えています。

すべての子ども達、そしてすべての保育者の
ウェルビーイングのために！

【研修報告】

令和8年度岩手県市町村幼児教育推進協議会（6月5日）

- ・説明（本県における就学前教育推進体制）
- ・実践発表 宮古市教育委員会 武田啓佑指導主事
「幼保小の架け橋プログラムの実施に係る保健・福祉等との専門職との効果的な連携」
- ・講義動画(文部科学省提供)
「幼保小の架け橋プログラムの充実について」
- ・演習「市町村内での今後の計画作成」
「幼児教育アドバイザーの配置促進」「幼児教育の質の向上」をねらいとし、本協議会を実施しました。各市町村から約3名ずつ（教育委員会・保育行政・幼児教育施設）参加いただきました。宮古市の実践発表をもとに、それぞれの市町村の実情に応じた今後の計画について考えていただきました。市町村内でじっくりと検討するだけでなく、他市町村へ聞きに行きヒントを得るなど、積極的に御参加いただきました。お忙しい中日程を調整し、協議いただいた皆様、ありがとうございました。

・・・・・・・・・・ご参加いただいた皆様のリフレクションシートより・・・・・・・・・・

保育の質の向上に向け、幼児教育アドバイザーが市にいて、今よりも相談しやすくなるのはとてもよいことだと思います。日々の保育や園の実態に寄り添ってくれるアドバイザーがいることは心強いと思いました。（園の先生）

ズレがあって当たり前、知ろうとする気持ちを大事にしていくことで、よりよい接続・連携ができるのではないかと。交流、カリキュラム、実践、反省などをもっと気軽に話し合えて高め合える関係性が築けるように今回話し合ったことを生かしていきたい。（園の先生）

園、小学校の思いや考えを伺うことができ、大変いい機会になりました。幼保小に関わって3年目となりますが、保育行政側からはなかなか深く入ることが難しいと思っていました。ですが、最初の年より確実に前に進んできていると今日改めて感じることができました。（保育行政）

アドバイザー、コーディネーターの配置済、準備中の市町村が多く、驚いた。当市の状況をふまえ、配置の是非、時期について検討したい。（保育行政）

隣市の釜石市から「いわて幼児教育アドバイザー」の詳細を伺った。どのような人材が研修を受けているか、どのように配置するか、今後の展望を詳しく知ることができた。当町でも配置に向けて参考にしていきたいと感じた。（教育行政）

宮古市の実践から、幼保こ、学校、行政と強いつながりで進めていくことが大切であると感じました。保育園の先生、福祉課の方と話をすることができ、現状に対して共通理解することができ、今後の方向性を話し合うことができました。（教育行政）



武田指導主事による実践発表



市町村内での協議の様子



市町村を越えた情報交換の様子

